

みみタロウ

日本語版

86号 2011年2月

滋賀県国際協会ボランティアグループ「みみタロウ」
 津市におの浜1-1-20 ピアザ淡海2F

Tel/Fax : 077-523-5646

E-mail : mimitaro@s-i-a.or.jp

URL : http://www.s-i-a.or.jp

コミュニケーションで友達がいっぱい!

今回、みみタロウは、湖西市に住むインドネシア人のスラメット・スプリヤントさん、
 鵜飼和美さんご夫妻と更紗ちゃん(4歳)に出会い、インドネシアのこと、日本で
 の暮らしのことなど沢山のお話を伺いました。



スラメットさん： 私はインドネシアのジャワ島から
 2001年に、研修生として来日しました。インドネシアは
 18,000を超える島から成る国です。各島に固有の言葉が
 あり、一般にインドネシア人はインドネシア語と自分の
 島の言葉を使います。インドネシア人には、名前に姓の
 ある人もない人もいて、私の名前はどちらもファース
 トネームで、ファミリーネームはありません。技術研修
 制度は、日本の技術を海外の若者に伝える趣旨で提携
 国間で行われていて、日本語試験を経て各企業に採用
 されます。来日当初は多少不安だったものの、日本には
 違和感なくすぐに慣れました。というのも、
 インドネシアは大の親日国。昔から、テレビドラマの
 「おしん」を始め、「ポップ」や漫画など、日本の文化が
 浸透しています。日本に来た時には、「おしん」の国に来
 たなあと感じていました。研修期間中、帰宅時に訪
 れたショッピングセンターで、ちょうどインドネシアの
 雑貨店を開いていた妻と出会い、研修期間を終えて
 帰国してから2年後に、今度は結婚して来日しました。

日本では、沢山の友達に囲まれ、楽しく暮らしています。
 もちろん、日本人とは物事の考え方が異なる部分もあ
 りますが、それは自分たちが理解しないといけないと思
 っています。今の職場で外国人は私だけ。職場の皆さん
 には優しくしていただいている、「スーさん」と呼ば
 れています。仕事の説明は、言葉による説明だけではわ
 からない部分もありましたが、実際見せてもらえるとす
 ぐに理解できました。今では、新しく入った日本人に
 「説明しといてね」と言われたりもするんですよ。

インドネシア人は、恥ずかしがり屋も多いのですが、
 人と人との距離がとて近く、知り合ってから会うと、
 もう友達です。そのコツは、コミュニケーションを沢山
 とること。あたりまえのことですが、コミュニケーション
 があれば、人と人は近くなります。日本人は挨拶を大
 切にしますが、インドネシア人は「お早う、どこ行く
 の？気をつけや〜」と必ず挨拶にもう一言声をかけ、
 それでコミュニケーションが始まります。もし誰か覚え

てない人から声をかけられたとしたら、日本人だったら
 「誰だったかな」と思っても口にしません、
 インドネシア人は「どこでお会いしましたか？」と思っ
 ていることをすぐ口にして友達になってしまいます。そ
 して私が日本で暮らしていく中で一番大切にしている
 のが、コミュニケーション。日本人に自分から話しかけ、
 日本人の中に自分から飛び込んでいます。自分から「前
 にお会いしましたね」と声をかけると、とても喜んで
 もらえてすぐ友達になれます。さらにメールや電話番号
 を交換して、どんどん友達が増えているんです。私の
 日本語もまだまだですが、もし変に話したら、きっと直
 してもらえ、と信じて話すことにしています。そうす
 ることで日本語もうまくなる、友達も増える、でいいこ
 とづくめですよ。地域の人とも仲良くして、最近で
 は自治会の組長もやり、防災ボランティアにも登録し
 ました。インドネシアでも地域のつながりがとても強く、
 若者の会、父親の会、母親の会など地域活動が活発です。
 そして、近所の人々とは野菜や塩などをあげたりもらっ
 たりと、まるで家族のように付き合うんですよ。

鵜飼さん：インドネシアに行くと、あちらの婦人会に
 お義母さんに連れて行ってもらうのですが、私の場合
 は、言葉もあまりできなくて、縮こまってしまいます。
 その点、パパさんはどんどん日本人の中に入って行って、
 すごいなあいつも感心します。インドネシアは、人の
 結びつきの濃い社会で、子どもも地域の人の中で育ちま
 す。日本に関心を持つ人も多く、何故か五輪真弓の「心
 の歌」が有名で、どこに行ってもみんな日本語でこの歌
 を口ずさみ、私が歩くと「心の歌！」と声がかかる程！
 一方、インドネシアの伝統染色技術であるバティック
 (更紗)は、室町時代に日本に伝わり、友禅織り、和更紗
 を生み出すなど、インドネシアと日本とは深い繋がりが
 あります。

そして私たちの娘の名前は更紗。どこでも生きてい
 けるたくましい子に育ててほしいと思っています。